

## 第33回 臨床高次脳機能研究会えひめ 開催のご案内

日時：平成30年2月24日（土） 13:00～15:30（12:30～受付開始）

場所：テクノプラザ テクノホール（松山市久米窪田町 337-1）TEL：(089) 960-1100

12:50～ えこまちOB会（高次脳機能障害当事者）による読み聞かせライブ

13:00～ 開会挨拶 松山リハビリテーション病院 理事長・病院長 木戸保秀

13:05～ 【演題発表】座長：十全ユリノキ病院 心理室 室長 小森憲治郎 先生  
「半球優位性の分配について再考させられた矯正後右利きの失語症の一例」

愛媛県立中央病院 言語聴覚士 三瀬 和人 氏

「方向性注意障害を呈した症例に対する@ATTENTIONの導入効果」

伊予病院 理学療法士 奥本 充 氏

「高次脳機能障害者の段階的機能回復から自己認識の獲得に向けて」

松山リハビリテーション病院 作業療法士 大西 直人 氏

13:50～ 休憩

14:00～ 【基調講演】「岡山県の支援体制とリハビリ的介入」

川崎医科大学附属病院 高次脳機能障害相談支援コーディネーター 八木 真美 氏

14:20～ 【特別講演】「社会的行動障害者の社会参加に向けた  
リハビリテーションと支援」

川崎医科大学附属病院 リハビリテーション医学教室 准教授 平岡 崇 先生

座長：松山リハビリテーション病院 理事長・病院長 木戸 保秀

国策として障害者の社会参加推進が図られている。当大学病院で支援した高次脳機能障害者全体の社会参加率は58%と他の報告に比し高率であるのに対し、社会的行動障害者に限れば相当低下する。社会参加を困難としている最大の理由として問題行動があげられる。問題行動を含む社会的行動障害に対しては、いまだ統一された訓練法や支援策は確立されていないが、認知行動療法を応用したリハビリテーションは効果的であると考えられる。当大学病院での研究やリハビリテーションを含む支援の取り組みについて紹介する。

15:40～ 質疑応答・閉会

\* 第33回臨床高次脳機能研究会は以下の単位が取得できる予定です。

- ・愛媛県医師会生涯教育単位【2単位】
- ・日本リハビリテーション医学会生涯教育単位【10単位：取得料1,000円】
- ・日本作業療法士協会生涯教育【1ポイント】

参加費：1,000円（上記単位申請者は1,500円）

臨床高次脳機能研究会 世話人：

愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座

貞本病院 脳疾患先端医療センター長

西条市民病院 リハビリテーション科

伊予病院 リハビリテーション科

十全ユリノキ病院 心理室

松山リハビリテーション病院 リハビリテーション病院

谷向 知

大西 丘倫

首藤 貴

藤田 正明

小森 憲治郎

木戸 保秀

FAX:089-975-0603

高次脳機能障害支援室 行

送信表は不要です。このまま送信して下さい。

臨床高次脳機能障害研究会えひめ参加申込書

## 《所属機関情報》

所属機関: \_\_\_\_\_

連絡先: \_\_\_\_\_

氏名	職種

※申込み締切 平成30年2月9日(金)※

《問い合わせ先》

松山リハビリテーション病院 高次脳機能障害支援室 伊賀上・中平

〒791-1111 松山市高井町1211番地

TEL:089-975-7431(代) FAX:089-975-1670(代)

E-mail: [matsuriha.hp-koujino@jikyokai.or.jp](mailto:matsuriha.hp-koujino@jikyokai.or.jp)